

4月17日 強風大荒れ トタン屋根やハウス被覆材の破損

発達した低気圧の影響で、庄内地方は17日から18日未明にかけて強風が強まり被害が相次ぎました。

山形地方気象台は午前6時17分に庄内全域に暴風警報や竜巻注意情報を発表し、酒田市飛島で16時3分に最大瞬間風速37.5m/sを記録。鶴岡市では17時31分に24.7m/sを記録しました。



藤島地域4/17暴風による被害概要 (4/19・17時) 産業課

- ・「はえぬき」看板 (国道345号沿い)
- ・農業用ビニルハウス全壊20棟 被覆材破損26棟
- ・畜舎 牛舎ト外屋根一部破損2棟 (須走) 出入口シャッター一部破損2棟 (須走・工藤)、鶏舎出入口シャッター一部破損1棟 (野田田)、被覆資材ビニル破損1棟 (宝徳)、豚舎ハウス豚舎の被覆材一部破損2棟 (添川) ト外屋根等破損4棟 (中荒俣)
- ・その他 物置が強風で移動1棟 (工藤) 堆肥舎のビニルハウス被覆材一部破損1棟 (大川度) 堆肥舎屋根資材破損1棟 (西渡前)

東部建設事務所

- ・歴史公園の大藤棚に設置した防草シートが300㎡ほどはがされる。
- ・市道添川立谷沢線通行止め (倒木応急処理済、23日解除予定)

その他

- ・民家のブロッケンが倒壊1箇所 (新町)
- ・民家の屋根飛んで電線を直撃 (停電する) 1箇所 (三和)
- ・民家倉庫の側壁ト外破損1箇所 (上平形)

まとめでは、19日17時現在の被害状況調べで合計218件の報告があり、矢引でプレハブ小屋の下敷きになって重症となったなど人的被害は3件、屋根トタン剥離など住家被害24件、非住家被害16件、パイプハウスなど農業被害112件などとなっています。

鶴岡市防災安全課の「はえぬき」看板の2文字が

落下し、歴史公園の大藤棚に設置した防草シートが300㎡ほどはがされる他、トタン屋根の破損やハウス被覆材の破損など相次ぎました。

平成大合併とは何だったのか④ 旧町村の周辺化をいかに防ぐか 地域内分権のあり方検討を

合併で周辺となった旧町村は失われたものの大きさに愕然としました。

旧町村が持っていた個性は独自サービスの廃止や公民館のコミセン化などで縮小し標準化され、ランドセル支給、高齢者ハイヤー券などの廃止、敬老会の縮小、社会教育の後退などにより地域住民の絆、関係性が希薄になりました。

本所集中の縦割り行政が強化されて、支所の予算権限がなくなり、地域単位で産業政策と生活関連施策を有効に結合することが難しくなりました。議員数の減少で地域の個性ある政策要求が届きにくくなるなどマ

私の昭和 26

鈴木重雄 (88歳・八色木)

疎開

都会からの学童疎開で大洞寺にも集団寄宿していたし、親類縁子を頼って個人の家にも間借りをし、学校に通っていた。

藤島小学校の集落の神社や集会所で分散授業も行っていた。

私の奉公先、日向家にも疎開者が来ることになり荷物を受け取り荷馬車で藤島駅丸通に行った。

家財道具は少しであったが本の多いのに驚いた。

何日か遅れて若い奥さんが乳呑児を抱いて来られた。広島からだと言っている。

座敷に住まいしていたが顔を合わせる機会はなかった。短かい期間で転居された。

当時広島には原爆が投下されたと報道はなかったたので事情を知る由もなかった。

イナスの効果は大きくなっていきます。

周辺部となった旧町村は、地域経済の衰退が続く、学校統廃合による通学環境の悪化などで人口流出が顕著になり、出生数の激減、旧町村からの転出が市内の転居になってふるさとを捨てるある種の「後ろめたさ」がなくなり、人口減少と域内格差が拡大しているのが現実です。

その結果、旧町村の周辺化をいかに防ぐかが重要な課題になっています。合併前の市町村行政のなかで、「地域の自立した発展と活性化」を主体的に計画し実践してきたのは町村長や議

会であり、それを失った後の地域を支える主体をどうするかは極めて重要な課題です。上越市など地域自治区の取り組みや小規模多機能自治など地域内分権のあり方を検討すべきです。(おわり)

姉妹都市盟約20周年

藤島・名寄交流友の会(小野由天会長)の総会が15日、藤島ふれあいセンターで開かれ、今年姉妹都市盟約20周年で記念訪問事業に取り組むこととしました。

期日は7月31日(日)～8月2日(火)で、名寄つつし祭り見学や観光、記念事業・祝賀会に参加します。旅行代金は1人4万8千円で、申込締切は5月6日必着。

「戦争法廃止を求める統一署名」藤島で1786筆(4月18日)

ご協力に心から感謝します。まだの方は最終4月29日までお願いします。全国の署名が集約され5月3日の憲法記念日に発表され国会に届けられます。

